

これからの特別支援教育を支える学校施設の在り方について(案)

～子供たちが共に学ぶ場、多様な学びの場にふさわしい環境づくりを目指して～

- 特別支援教育を行う各学校の学校施設整備指針は、生徒の学習・生活の場として、また、最も身近な公共施設として、必要な施設機能を確保するための留意事項を網羅的に記載。一方で、特別支援教育を行う学校を取り巻く環境は変化しており、現行指針の留意事項の不断の見直しが必要。
- 新しい時代の特別支援教育等の動向に対応するため、「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」(主査：上野淳 東京都立大学名誉教授)において、これからの特別支援学校教育を支える学校施設の在り方と特別支援学校をはじめとした各学校施設整備指針の改訂案をとりまとめ。

報告書の概要

第1章 新しい時代の特別支援教育等の動向

1. 特別支援教育に関する基本的な考え方や状況の変化

- ・インクルーシブ教育システムの理念の構築を旨とし、全ての子供たちが適切な教育を受けられる環境整備が重要
- ・特別支援教育を受ける児童生徒の増加、特別支援学校学習指導要領の改訂、特別支援学校設置基準の制定

2. これからの特別支援教育の方向性

- ・障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に教育を受けられる学びの場の整備
- ・障害のある子供の自立と社会参加を見据え、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備

3. 公共施設としての学校施設を取り巻く現況

- ・バリアフリー化の推進、災害への対応、防災・減災、国土強靱化の推進、老朽化への対応、脱炭素社会の実現

第2章 特別支援教育を巡る状況等を踏まえた施設の在り方、第3章 学校施設整備指針の改訂

◆特別支援教育を巡る状況等を踏まえ、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の施設整備で更に充実を図るべき視点を示すとともに、それを踏まえた各学校施設整備指針の改訂等について提言

1. 障害のある子供と障害のない子供が共に学ぶ場、多様な学びの場の整備

- ▷障害のある子供と障害のない子供が共に学ぶ場の整備
- ▷特別支援学級、通級による指導への対応
- ▷施設の併置・併設等の多様な設置形態への対応

2. 一人一人の教育的ニーズに応じた教育を支えるための施設の充実

- ▷障害種別の対応
- ▷特別支援教育におけるICTの活用と個別最適な学び・協働的な学びへの対応
- ▷医療的ケアへの対応
- ▷自立と社会参加への対応
- ▷関係機関の連携強化による切れ目ない支援への対応
- ▷特別支援教育を担う教職員のための施設面での対応

3. 地域のコミュニティの拠点としての機能の充実

- ▷災害時における福祉避難所等としての役割を踏まえた対応
- ▷生涯学習、保護者・地域住民等との関わり

4. 社会的要請を踏まえた安全・安心・快適な空間づくり

- ▷バリアフリー・ユニバーサルデザイン
- ▷特別支援学校の教室不足への対応

5. その他、特別支援学校の施設について他の学校種と共通して充実を図るべき事項

- ▷新学習指導要領への対応
- ▷ICT環境の充実
- ▷学校施設の安全性や衛生環境等の確保、環境負荷低減、防災機能の向上
- ▷長寿命化への対応
- ▷幼児児童生徒の多様化への対応
- ▷教職員の働く場としての機能向上
- ▷地域との連携・協働の推進

◆推進方策として、整備指針の改訂、具体的な事例の発信、財政支援の仕組みの周知等を提言